

西条中学校研究通信

第6号
研究部

今年度は、研究主題を「『主体的・対話的で深い学び』を実現するための指導の工夫」、副題を「『選択』と『共有』の場面を取り入れた単元づくりを通して」として研究を進めています。夏休み前半では、各教科で指導主事の先生方と膝を突き合わせて熱心な検討会を持っていただきました。8月中旬に指導案を完成させるため、修正に取り組んでいただいているところだと思います。そこで、6月の校内研修でお話していただいた澤井陽介先生の講話から、『**選択**』と『**共有**』の**場面を取り入れた単元づくり**」に関して、特に留意していただきたいポイントを4つ再確認しておきたいと思います。

澤井先生のご講話から（6月18日校内研修会にて）

★なぜ「選択」と「共有」か？！

なぜ「選択」「共有」を使ったらいいと思ってるか、
という「主体的・対話的で深い学び」は「目的概念」
で、「個別最適（＝選択）」「協働的（＝共有）」は、その
実現にむけた「具体的な姿」。合言葉として、学習活動の
合言葉を持った方が、それぞれの教科の違いを乗り越えて
一緒に研究できるから。「共有」とか「選択」とかって、学習活動の言葉でしょ？そして指導場面
もイメージしやすい。「共有場面」とか「選択場面」とかね。教師もイメージしやすいし。子供も
「選択」「共有」っていう学習活動として、子供の姿も思い浮かぶから良いですね。難しい言葉
を使わず、目的概念にもあまりとらわれず。つまり「個別最適」と言っちゃうと、「最適化」って
いう、またややこしい目的概念になっちゃうので。「選択」「共有」の方が、みんながそれぞれ自
分の教科に応じて解釈ができる、という意味でいいんじゃないかなってことです。

※何を誰と「選択」「共有」するか？

何を「選択⇄共有」するか

- ① 課題、めあて
- ② 予想、アイデア
- ③ 教材、資料
- ④ 事例、内容、調査事項
- ⑤ 学習方法（調べ方）
- ⑥ 立場（視点、意見）
- ⑦ まとめ方（作品、提案、実践）など

何を「選択」するか

- ① チーム・グループ、助言者
- ② 場所（取材・調査、実験、実践）
- ③ 教具、素材、具材
- ④ 学習時間

何を「共有」するか

- ① 学習成果（概念、方略）
- ② つまづき、新たな課題

だれと「共有」するか

- ① 隣り・近くの友だち
- ② グループのメンバー
- ③ 学級全員、学年全員
- ④ 地域の方々、GTなど
- ⑤ 不特定多数（情報発信）

なぜ「振り返り」か

- ・学習評価の改善が今後の課題
- ・「選択」と「共有」の間に自分の学習状況の確認が必要
- ・「学習調整」や「新たな気づき」には振り返りが不可欠
- ・自分の成長の振り返りにより自己肯定感を育むことが求められている
- ・「子供の学習活動」である

★どんな場面で「選択」「共有」を取り入れるの？！

選ぶ・決める・自力で追究する学習の意味（活動の目的）

- ① 子供の意思を尊重し主体性を育む
- ② 全ての子供に学習の成立を促す
- ③ 必然的な対話が生まれやすい（情報交換、共有が必要になる）
- ④ 共有することで豊かな学びになる（視点の広がりや考え・理解の深まり）

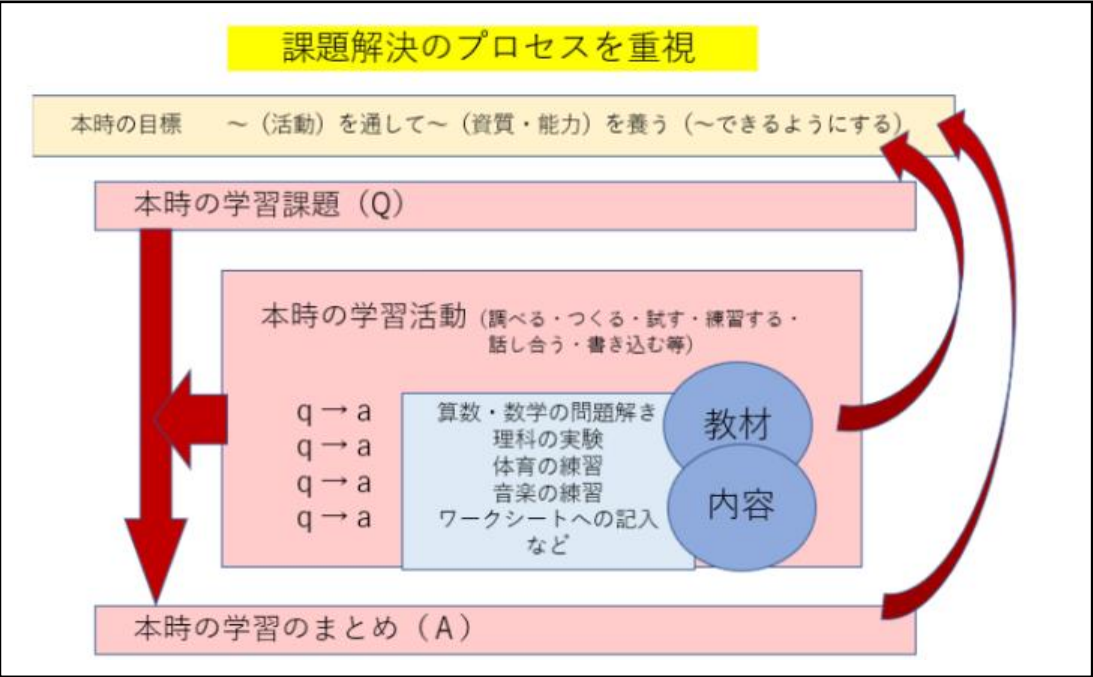
主体的
対話的
深い

「選ぶ」「決める」「自力で追求する」。これをね、どこまでどうやってやるかなんです。その意味は、やっぱり「主体性」ですよね。**意志を持って、見通しを持ってやる**、そして、**みんなが学習を成立する**。そして、**違う視点で取り組むから対話が生まれやすくなる**。そして**まとめること（共有）で、視点が豊かになる。意見が豊かに広がる。**こういう良さがあるとしたら、選ばせる。いや、ここは選ばせなくてもいいやと。どこで「選択」「共有」の場面を取り入れるのか、これも選択してみてください。考えてみてくださいね。**なんでもかんでも選択すればいいわけではない。「意思と見通しをもって選択」→「個別（個人やグループ）の学び」→「必然的な対話・共有」という流れができることに意味がある**という場面で「選択」「共有」させる。

★「選択」「共有」を取り入れるとき、これは忘れないで！

子供たちの学力は、疑問から、自分の課題意識から、調べた・追求した事柄、最後、自分のまとめの言葉、これ全部繋がってますからね。ここはもう本当に忘れないようにした方が良い。自分でまとめるってことが大事だし、課題を掴ませることにちょっと時間を（とる必要がある）、前

の時間に決めていたとしても、もう 1 回、「この課題どうやったら解決できそう?」「みんなで、もう一度課題考えよう」っていうところからやらないと、どうしても指示型、活動型の授業になりがちです。



課題解決のプロセスを大事にするってことですよね。課題解決のプロセスを大事にするってことは、皆さんがこれから授業をするときに、例えば今日の国語科の授業の場合、課題が決まりましたよね。前の時間に決めて、前の時間に違いを出して、今日はこれやりますよって、課題を出す。これ中学校多いんですけど。ここで気をつけないといけないのは、この課題をもう 1 回子どもたちにフィードバックしないと、課題は課題で出すけど、「じゃあこれを解決するために今日の手順を言います。」って言うと、課題と切り離して、もうここから先は作業になる。順番に、やるべきことを一生懸命に頭に入れるんです。そして、何を忘れちゃうかという、この課題を解決するためだったってことを忘れちゃう。これね、結構あるんですよ。前の時間に課題を作って、来週やろうねって決めとく。これいいですよ。いいんだけど、黒板にピタッと貼って、「今日の課題、これだったよね。はい、今日やることを、手順を言います。」ってやると、もう手順の方に頭が行っちゃう。作業学習になる。「この課題はみんなどう思ったんだっけ?」「どんな予想があったっけ?」「何が疑問だったっけ?」って、もう 1 回この課題に戻してからやらないと。つまり、(1 時間の授業の中で) 課題から解決に繋がっていかないと、学力にならない。どうしても作業手順をバンバン、バンバンって言って、はい、やりなさいって言うと、作業をやる学習になってる。作業がうまくできたってまとめになっちゃう。課題を解決するという、ここに(本時の学習課題)のところに疑問や予想がぶら下がってる。自分の意志がここに入ってる。で、調べた

り、考えたり、話し合ったり、発表したり、表現したり、伝えたり、で、まとめになると。学力って、こう(課題からまとめまで)繋がってるんですよ。

★今後の教育の流れにもマッ千！！

主な審議事項

中央教育審議会諮問(2025. 12)より

2 多様な子供たちを包摂する柔軟な教育課程の在り方

- 興味・関心や能力・特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる学習環境デザインの重要性、デジタル学習基盤を前提とした新たな時代にふさわしい学びや教師の指導性の在り方
- 教師に「余白」を生み、教育の質の向上に資する可能性も含めた、子供たちの可能性が輝く柔軟な教育課程編成の促進の在り方(各種特例校制度等を活用しやすくすること、標準授業時数に係る柔軟性、学習内容の学年区分に係る弾力性、単位授業時間や年間の最低授業週数の示し方)

指導計画や学習環境のデザイン

では、ここからは、これからの教育の方向性を話します。…中略…今回(2024 年 12 月)この審議事項があると。これが、今、一番先生方が注目しているところだと思います。「興味・関心や能力、特性に応じて子供が学びを自己調整し、教材や方法を選択できる指導計画や学習環境」だから、皆さん単元作りでいいと思います。「指導計画や、単元作りのデザイン」。これが今、諮問の授業改善の中で、一番目に来てる。授業改善の一番です。だから、これを目指して「学習環境デザイン」とかいう言葉をあちこちで使い始めるんじゃないかな?と思います。けど、私はやっぱり「選択できる」っていう、ここがキーワードだと思います。「子供が選択できる」ね。「生徒が選択」。これがキーワードだと思います。だから課題に対しての選択で、今日やられたみたいに、「なぜそれを選んだの?」って見通しを持たせて、「そしてどうだった?」って振り返りをやって、友達のを参考にしながら学習調整するとかっていうね。こういう、ロジックは今日のように、一時間でも提案はできるかもしれない。または、長いスパンで考えたら単元でこれやってるっていうことですかね。